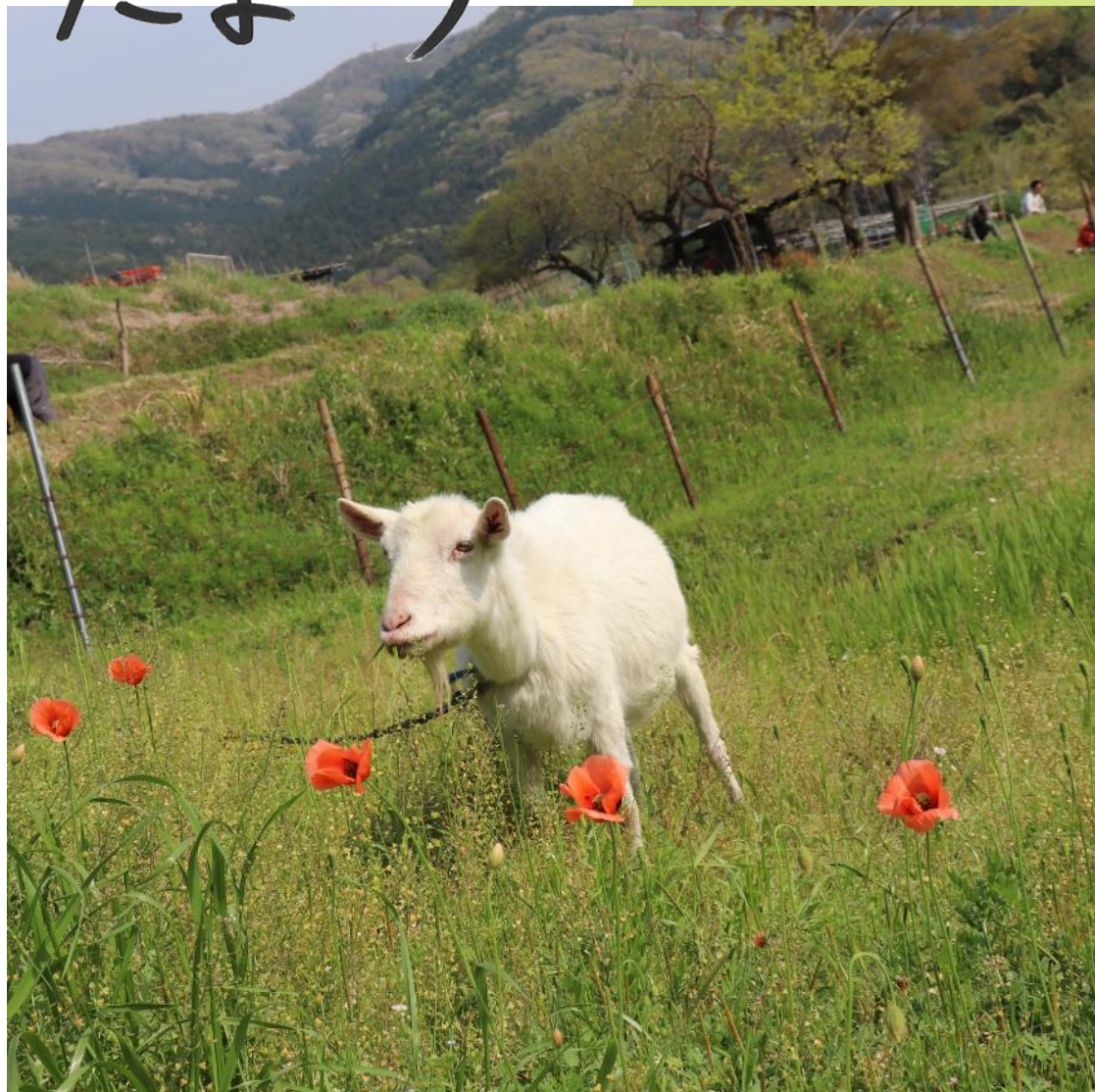


つくば だより



特集 チャレンジアートフェスティバルinつくば
～ほっとハウスのとりくみ～

みんなの得意が集まって 一つの作品になりました



チャレンジアートフェスティバルinつくばに創作劇の舞台発表をしました。これまでほととハウスでは、ダンスでの舞台発表の経験はありませんでしたが、創作劇は初めてです。今回、脚本を作り、中心となって創作にあたった職員の中嶋さんに、創作劇にした理由や取り組みの中で感じたことを伺いました。

ライオンキングをやりたかった

障害者支援センター未来に在籍中に劇で参加しているのを実行委員の立場から見ている、自分が担当するときには劇団四季のライオンキングみたいな感じでやりたい、と思っていました。実際には、ライオンキングを10分の尺に収めることは難しく、昔話の中に動物たちの仮装を入れてみました。「心配ないさ」のセリフだけはどうしてもやりたかったのですが、言い方や抑揚が違うだけでだいぶ印象が違ってしまいます。セリフをテンポよくかぶせていく台本に変えてみました。主役の3人の「心配ないさ」「心配あるさ」「食欲あるさ」「筋肉あるさ」のセリフもそれぞれ、味が出て面白く思いました。本番では、こちらが狙っているところではなく、思っているもいなかったイノシシが主役を倒したところで拍手がありました。金のタケノコにスポットライトが当たった場面にも歓声があがり、つくばカピオのスタッフの演出のおかげですね。

チャレンジアートフェスティバルinつくば

舞台発表や作品展を通して、障害のある方が自分自身の感性を思い思いのパフォーマンスで発信する。各団体による舞台発表と作品展示と盛りだくさんの企画がある。

利用者さんに楽しんでほしかった

利用者さんも劇は久々だったの
で、僕としては楽しんでやってほ
しいと最初に伝えました。実際に
は、そんなにブランクを感じな
かったですね。

もともと筑峯の創作劇は教訓を
含ませて作っている先輩から聞
いていたので、学びの面も含め
て作ったつもりです。お互いの欠
点を受け入れ合って生きていき
なければ、現実はその甘くない
から、せめて物語の中だけはそんな
寛容な世界観にしたかったとい
う思いで作りました。

終わってから、利用者さんか
ら「楽しかった」という声が聞か
れました。僕の中では、楽しんで
もらえるのが一番だったので、良
かったと思います。



中嶋朋宏

他法人を経験後入職。
障害者支援センター未来
の支援員を経て、ほと
とハウスに異動。

どう表現するかを伝えることが難 しかった

週に一回の練習でしたので、一
進一退というか、前回の振り返り
から始めて、徐々にできるよう
になっていきました。

利用者さんにどう表現をして
いったらいいのかを伝えるのが難
しかったです。見ている側に伝わ
りやすいようにとか、周りの職員
の意見を聞きながら工夫してい
きました。

前日のリハーサルでは間違え
るところもあり、不安を残した状態
で迎えた本番でした。当日は、こ
れまでが一番よくできていたの
で、奇跡なんじゃないかと思いま
した。練習してきた事を大きな舞
台で発表するという経験だけでも
人生の糧になると思いました。



今だからできたことかもしれない

やってみて楽しかったです。み
んなで一つのを半年かけて作
り上げるっていうのは面白かつ
たです。なかなかそんな仕事はな
いから。職員は他の業務をしな
がらだったもので、負担も大きか
たかと思えます。かなりこだわっ
てやってくれました。みんなの得
意分野を活かして得意が集まって
一つの作品になりました。利用者
さんも、小道具作りの竹を組ん
だものに紙を貼ることをやって
くれました。職員、利用者が総出で
丸となってできたのは良かった
と思います。

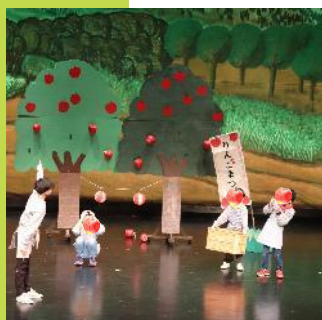
利用者さんと職員の5年後10年
後を考えると、今回みたいなエネ
ルギーでできないかもしれないの
で、良いタイミングでできたと思
います。

物語は病気の父親のために『食べるど
んな病気で治るといふ金のタケノコ』を
息子たち3人で森にとりに行くという昔話。
それぞれに欠点を持っている息子たちが、
父の忠告を聞かずに森の中で失敗し、その
度に反省しながら成長していくのかと思
い、結局あまり変わらずに帰ってくる。
両親は息子たちの行動を承知の上で寛容な
態度で迎える。



あれ？あれれ？！大変だ！！リンゴが減っている！！

リンゴがへっているよ！
どうしよう。



リンゴを返して！
リンゴを取り合う恐竜と村人



児童施設のチャレンジアートフェスティバルの舞台は立派なリンゴの木がある筑峯村。村人がリンゴ祭り開催のため一生懸命準備を進めていると、大事件が起こります。

リンゴをこっそり取っていたのは恐竜の親子。一時は争いに発展しますが、それぞれの思いや事情を分かち合い仲直りします。最後は全員で楽しくリンゴダンスを踊りました。

全員で一生懸命練習し、一つの劇を作り上げることが出来ました。ダンスを踊る際には会場から沢山の手拍子をいただき、さらに大盛り上がり。笑顔で終わることが出来ました。



チャレンジアートフェスティバル作品展



ほっとハウスからは貼り絵を出展しました。利用者さん達は各々の力を存分に発揮し、色紙を細かく千切って、職員が糊付けをお手伝いし、作品を仕上げていきました。
 「まいにちクリスマスだったらいいのにな。」「夜桜」の2点を展示しました。一般のお客さんから「購入し家で飾りたい」という感想も頂き、来年の作品展にもぜひ参加したいと思えます。

児童施設からは絵画作品、障害者支援センター未来からは立体造形、草木染を出展しました。



令和7年度によせて

障害児入所施設 筑峯学園
施設長 岡野美智子

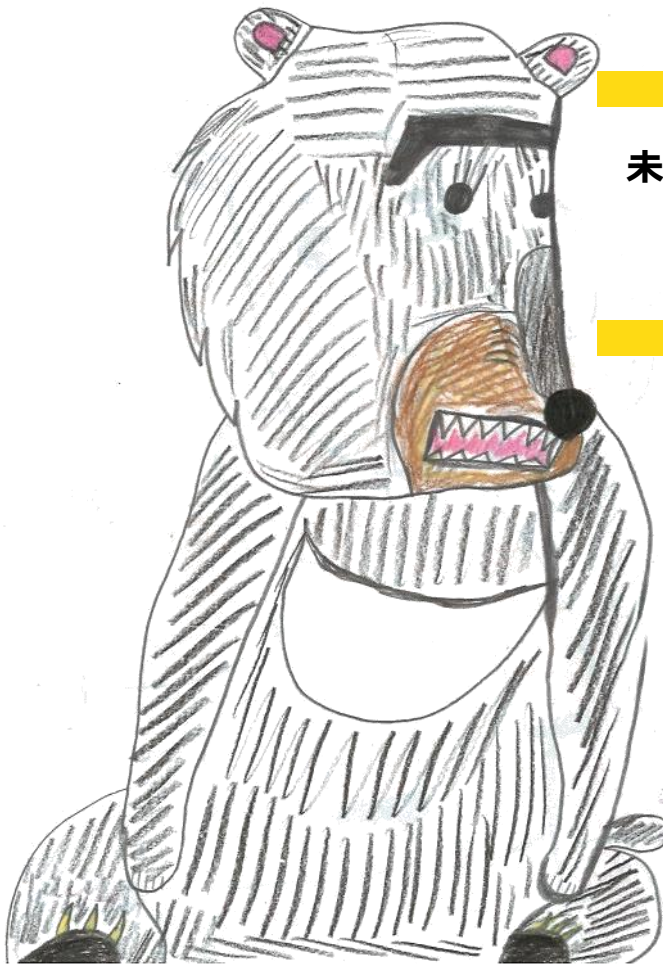
桜舞うなか、真新しい制服をまとい初々しく誇らしげに小・中・高校の入学を迎えました。2人の園生は、これからの人生が豊かになりましよう願いを込め、成人施設へと送り出しました。

未就学の子どもたちは、遊びやお手伝い、日々の生活を通し、年齢の力をつけるべく元気いっぱいに過ごしています。職員も子どもたちが成長し、優しく力強い人となる様、なお一層の努力をしたいと思います。

保護者の皆様には、日ごろよりご協力いただきまして御礼申し上げます。お子様が入所にしてからもご家族の想い、願いを伺いながらともに考え、支えあっているかと思っています。

児童施設の核となるものは、健康を守り、子供たちの真の育ちを保障するものと考えます。育ちを科学的なもので、長い進化を経て生み出されたものと考えます。その知見を学び、子供時代が楽しく正しく生きる元になるようにしていきたいと思っています。





未来施設長コラム始めました

障害者支援センター未来
センター長 松島寿樹

令和7年度もスタートして早くも1か月が経とうとしています。5月を迎える筑峯学園の周辺の山々は芽吹いた木々のグラデーションの中に点々と山桜が咲き誇り、活動中も思わず見惚れてしまうほどの光景です。利用者・職員ともども、この自然環境から多くのエネルギーを分けて貰いながら日々活動しています。

障害者支援センター未来は今年度も就労継続支援B型事業を行う「平沢事業所」と生活介護事業を行う「永井事業所」の2事業所で運営をしています。コロナ禍が過ぎたと思えば昨今の物価高騰や人手不足。今ままでにないスピード感で変化していく世の中は、落ち着く暇を与えてくれません。そんな中でも、職員で力を合わせて各々の事業所の環境を生かし、気候と相談しながら屋外での活動を中心に利用者一人一人が健康で充実した生活ができるよう、日中活動を工夫していきたいと思っています。昨年度は諸般の事情により、例年行っていた夏季旅行や冬季旅行ともに控えました。利用者・職員の思いとしてやはり宿泊を伴う外出の機会を持ちたいという事で、趣新たに秋に一泊の旅行を計画しています。冬につくほうだよりでは楽しかったご報告ができればと思います。

今年度も様々な方のご理解ご協力を得ながらの運営になりますが、温かく見守っていただければと存じます。よろしく願っています。

筑峯学園ホームページにて、未来施設長コラムを始めました。更新継続頑張ります。

日々の活動を 大事にしながら

共同生活援助事業所
ほっとハウス
施設長 大和田敏夫



ほっとハウスでは、4月5日、ちょうど良い時期にお花見を楽しむことができました。日中活動では、これから夏野菜の苗植え等が始まります。無理のない範囲で日々の活動を行っていききたいと思えます。今年度の行事としては、5月後半には毎年恒例のBBQ、6月から9月にかけてはグループ毎の買い物外出等を予定しております。実施については、利用者さんの声を聞きながら、皆で楽しめる行事にしたいと考えています。

昨年度を振り返りますと、法人内の事業変更により日中サービスマン支援型のグループホームとして17名の利用者さんの日中活動も支援することとなりました。一昨年度までは朝に利用者さんを送り出して夕方に入居する形で、昨年度からは一日を通して生活を共にすることで利用者さんとの距離も縮まりました。毎日が賑やかで新たな発見もありました。一方で慣れない日中活動のため、その経験を進めることができなかった部分もあり、その経験

や反省を今後の活動に繋げていきたいと考えております。また、3月にはほっとハウスとして、チャレンジアートフェスティバルにて創作劇の舞台発表を行いました。日中活動の合間の限られた時間での準備ではありましたが、利用者さんと職員共にできる限りの準備をして、立派に発表することができました。事業所として、利用者さんと職員が協力し合い、ひとつのことを作り上げていく機会が必要な経験だと考えているので、このような機会はこちらからもなくさずに行いたいと思っています。

ほっとハウスの現在の課題としては、利用者さんの高齢化があります。利用者さんの平均年齢は42歳となり、今後も進んでいく高齢化に対し、事業所としての支援や日中活動の在り方なども検討すべき課題となっています。利用者さんがこれまで培ってきた力を活かしながら、健康に過ごせることを基本として検討していきたいと思っています。また、作谷は事業開始から15年以上、平沢においても10年が経過し、建物と設備に修繕が必要な状態になってきています。グループホームの在り方や設備の見直しも必要になっていきますので、職員間での検討も徐々に進めていきたいと思っています。

最後になりますが、2025年も利用者さんが安心、安全にほっと落ち着いて過ごせる事業所を目指し頑張りますので、皆様ご支援の程よろしくお願いいたします。





令和7年度すたーと

児童発達支援事業所
すたーと

児童発達管理責任者
引田 紘介



桜の季節も終わり、新緑の美しい季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか？
毎年の事になりますが、今年は2名のお子様を小学校へと送り出しました。令和元年7月に始まった筑峯学園の児童発達支援も、気付けば10名のお子様を小学校へ送り出した事になりました。送り出した10名のお子様達の「その後」は、いつでも気になりますし、保護者の皆様も含め、元気に過ごしているかな？とふと思いついたりします。年賀状を毎年送ってくださるご家族や、写真を添えて直接近況報告をくださるご家族もいて、卒園した後もすたーとを忘れずにいてくださっている事が伝わり、職員一同とても嬉しく思っています。先日、今年度卒園するご家族から心温まるお手紙とほっこりするお子様の写真を頂きました。職員一同、「頑張ってきたよかった。」「また、明日から頑張ろう。」と励みになり、今後の活力になっています。いつも、いつも、ありがとうございます。つくば市内でも、様々な特色をもった児童発達支援事業所が多数あり、なかなか利用者さんを増やす事が出来ない現状がありますが、すたーとの良い所を大切にしていきながら、皆様に喜んで頂ける支援を提供する事が出来るよう、今後も努力していきたいと思っています。

令和7年度は5名の利用者さんと、新たなお子様との出会いを楽しみに、頑張っていきます。

令和7年度もよろしくお願い致します。

お花見



春の気持ちのいい日にお散歩がてらお花見に

児童施設では、4月3日のお花見が、あいにくの雨で中止になってしまいました。企画していたレクリエーションを楽しみました。

マス鬼ごっこ、色あてゲーム、ハンカチ落としをしました。翌日は天気も良く、北条大池まで花見に出掛けました。景色を楽しみながら散歩に行きました。満開まではいきませんでした。が、きれいに咲いていて春が来たなと感じることができました。公園で遊んでから学園に帰りました。

子どもたちの良い表情が見られてよかったです。新年度も元気に過ごしてほしいと思います。

ほっとハウスでは、4月5日にお花見を行いました。今年はお花見のお供のどらやき作りにもチャレンジ！利用者さん達は非常に楽しみにしており「お花見」や「どらやき」というワードが朝から飛び交っていました。

午後からほっとハウス平沢は宝篋山登山口へ、ほっとハウス作谷は北部公園へ、どら焼きをもって散歩がてらお花見へ出かけました。桜も見ごろでしたが、「花よりどらやき」な利用者さんも・・・自分で作ったどらやきの味は格別だった事でしよう。みなさんの笑顔も満開の楽しい時間を過ごす事ができました。

北条大池
「つくば道」旧登山道の入り口にある北条大池は、桜の開花期には、筑波山を背景に桜が咲き競います。水面に映し出される桜と筑波山が大変美しい、つくば市の代表的な桜の名所です。近くには平沢官衙遺跡が公園に整備されています。



芽吹きの時期
障害者支援センター未来 永井事業所



暖かな日も続き、永井の桜の花も散り始めたころ、見計らったかのように今年もタケノコが元気に土を押し上げ、3月に植え付けしたジャガイモが芽を出し、冬を越したエンドウ豆が勢いを増し上へと登り、ネギの坊主が膨らんで開花の時期を待ちわびています。そんな春の訪れとともに畑にも緑が増えてきました。冬に休んでいた身体を起こしながら動いていると、ようやく今年度も始まったという実感が湧きます。利用者さんたちの動きも春に合わせて動きが軽くなる感じがします。今年度も事業所として利用者、職員が怪我無く元気に過ごし、実りある一年にしたいと思っています。

新たなチャレンジ
障害者支援センター未来 平沢事業所



桜の花びらも散り始め
畑から見える山の木々の
緑も増え始めました。未
来・平沢事業所では、昨
年度一年間試行錯誤を続
けながら様々なことに
チャレンジしてきました
が、今年度は更に新たな
ことにチャレンジしてい
きたいと思っています。畑で
はじやがいも、長ネギの
植え付けが終わり、夏野
菜の種まきを始めたとい
ろです。開拓地ではみか
んの苗、地域畑ではブ
ルーベリー、の苗を植え、
時期には美味しく食べる
ことを楽しみに管理を進
めていきたいと思ひます。
今年度は更に多くの野菜
を皆様の元に届けられ
たいと思います。

児童入所施設の子供たちは、2月7日に冬季活動として、上野動物園と国立科学博物館へ行ってきました。上野動物園といえは、「パンダ!!」です。無事にパンダを見ることができました。はじめてパンダを見る子供たちも多く、大興奮でした。



楽しかった冬季活動

国立科学博物館では、少し難しかな?と思いましたが、動物のはく製を見たり、日本の歴史について学んだりすることができました。夕食はつくば市内に戻り、ホテルグランド東雲で食事をとりました。はじめて入るホテルに大興奮な様子でした。いつもとは違う雰囲気の中で、食事をしたことは良い経験になりました。



少し豪華な炊き出し

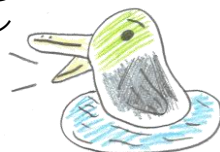
永井事業所の防災レクリエーションでは地震、火事の想定で避難訓練・自分達でのカレー作りを行いました。机の下に身を隠す事やその場に座り込み頭を守る行為を確認しながら、避難ルートを職員に続き無事に桜広場まで避難する事が出来ました。その後のカレー作りではそばもセットにし、見事なカレー定食が出来ました。少し炊き出しは贅沢をしてしまったかもしれませんが、一日を通して普段の何気ない生活が大切な事だと再確認できたのではないのでしょうか。



非常災害への取り組み

障害者支援センター未来編

障害者支援センター未来では、非常災害訓練として、地震発生から避難までの訓練に合わせて、調理レクリエーションを行っています。



火起こしは枝拾いから

平沢事業所の避難訓練では、地震が来た時にはどういう行動をとるべきか？を利用者さんと考えました。事前に避難先までのルートを確認し、実際に緊急地震速報の警報音で避難開始。外出前にトイレを済ませてから・いつもの習慣の利用者さんもありました。が、皆無事に避難できました。その後、ピザ作り開始。非常時にはあるものを活かす！という事で普段作業をしている畑に出向き収穫した野菜を使い、熱々のピザは格別!!ご飯にありつけられたありがたみを感じると共に普段の訓練の大切さを痛感しました。



社会福祉法人筑峯学園で実施している 相談支援事業とは？

相談支援事業所 筑峯学園
所長 武田真浩



令和7年度が始まり、当法人の相談支援事業所もおかげさまで（本格的に開始してから）14年目を迎えました。今年度の職員体制としては、専従職員2名、兼務職員1名の計3名となります。引き続きよろしくお願い申し上げます。

当事業所は社会福祉法人筑峯学園にて実施している事業所の一つですが、改めて社会福祉法人とは何なのか？、相談支援事業とは何なのか？等と考えることが最近多くなっております。その要因の一つとして、社会福祉法人として事業を行なっていることは、職員となる部分であり、しっかりと抑えておく必要があると思わされることがあったからです。

社会福祉法において社会福祉法人とは、「社会福祉事業を行うことを目的として、この法律の定めるところにより設立された法人」と定義されています。ここでいう「社会福祉事業」とは、社会福祉法第2条に定められている第一種社会福祉事業及び第二種社会福祉事業のことで、社会福祉法人は、「社会福祉事業の他、公益事業及び収益事業を行うことができます。」と

社会福祉法人筑峯学園とは何なのか？、当法人のホームページには、「社会福祉法人筑峯学園は、茨城県つくば市に大正12年から続く歴史ある施設です。筑波山麓の自然に恵まれた温暖な環境のもと、知的障害児・者の支援をしています。教育の目的を様々な環境との調和ととらえ、自然の中、集団の中で個別的な教育を行うこと、私たちが一番大切にしていることです。創設者岡野豊四郎が「連関調和教育法」と呼んだ教育理念は、今でも受け継がれています。」と掲載されております。その他にも障害を持つ人達のため、家族のため、地域福祉のため、社会的ニーズにこたえて未来を切り拓く福祉事業を行なっていくこと、自然と共に育ち合うこと等の内容も掲載されており、この基本となる部分や大切にしたいこうと考えていることをその都度確認しながら、この事業を並びに日々の支援を行なっていくかならないと改めて感じております。

社会福祉法人とは？、社会福祉法人筑峯学園で実施している相談支援事業とは？、誰のための相談支援なのか？等について見詰め直しながら、職員同士で深めていき、今年度も相談支援に取り組んでいきたいと思っております。

児童入所



節分

2月3日に節分の豆まきを行いました。職員が鬼に扮し、「福は内、鬼は外」と声に出しながら元気よく豆をまくことができました。鬼を前にしてちょっと怖い気持ちの子も見られましたが、離れたところから投げることもできましたよ。前日には子どもたちと一緒に柵イワシを作り、園内に飾りました。



障害者支援センター未来 永井



忘年会

3月31日に令和6年度永井忘年会が開催されました。午前は調理レクでBLTバーガーを作りました。パティをこねる、具材を切る、スープを混ぜるなどの工程を全員参加で協力しておいしいハンバーガーを作ることが出来ました。午後はリアル野球盤を新年度の班体制ごとのチームに分かれ試合を行いました。大きな当たりも飛び出し、予想以上の盛り上がりを見せました。皆さんの笑顔も多く見られ、新年度に向けた活力を得る良い一日になりました。新年度も気持ちを新たに活動していきます。



ほっとハウス



福祉マラソンに参加してきました！

2月16日、ほっとハウスからは3名の利用者が10年ぶりに皇居周回コースで開催された「第37回心をつなげる福祉マラソン」に参加してきました。当日は気温15度と、2月としては暖かく絶好のマラソン日和となり、3名とも無事に最後まで走りきることが出来ました。中には「30分30秒・30位」と、数字が並ぶほっこりするような記録を出された方もおり、思い出深い大会となりました。大会後には早くも皆さんから来年へ意気込みが聞かれ、次回への期待が高まっています。

給食だより

生活リズムを整え リフレッシュ

五月晴れの澄んだ青空を泳ぐ鯉のぼりが気持ちよさそうです。新生活も1か月が過ぎ、少し落ち着きを取り戻したところでございます。大人も子供も生活のリズムを作る事がとても大切です。生活リズムが整うことで1日を元気に過ごすことが出来ます。「早寝・早起・朝ごはん・排便習慣」もう1度立ち返ってみませんか。

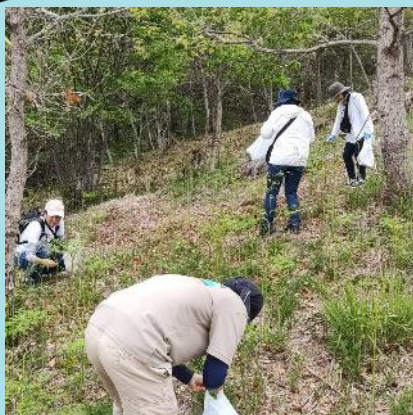
疲れ気味には季節柄、菖蒲湯なども立てて体も心も休めましょう。

タオルや綿の袋に細かくした菖蒲の葉を入れ、袋を洗面器などに入れ熱湯を注いで10分程置き精油を抽出。袋と抽出液を浴槽に入れば菖蒲湯の出来上がり。

いかがでしょうか。



イベント



4月20日、27日に筑峯学園の自然をいかして、わらび採りイベントを開催しました。

障害者支援センター未来センター長の松島と就労継続支援B型の利用者さんがつくほうの森を案内し、参加者の皆様に里山を満喫していただきました。

筑峯学園の自然と魅力を体験できるイベントを今後も企画していきます。ホームページ等で情報を発信していきます。

編集後記

今年度のつくほうだよりは、5月・9月・12月・2月に発行予定です。前月号よりサイズが変わり、今号より編成も変えてみました。より分かりやすく筑峯学園についてお知らせできるように、今後も工夫してまいります。

皆様のご感想やご意見ご要望をお聞かせください。



後援会会員を 募集しています

日頃より筑峯学園に温かいお心遣い
いただき、深く感謝申し上げます。
引き続き、皆様のご指導と温かいご
支援を宜しくお願い申し上げます。
後援会会員の方には、広報誌を送ら
せていただきます。

《年会費》

- 個人会費 一口 5,000円より
- 法人会費 一口 10,000円より



◀こちらのQRから
お申込をお願いします

ご寄附について

様々な形でのご寄付を受け付けて
おります。
学習用品、画材、本、おもちゃ、
衣類など
利用児・者の為に使わせていただ
きます。
ご支援をお願い申し上げます。
寄附申し込みフォームをご利用く
ださい。



◀こちらのQRから
お申込をお願いします

Instagram始めました！

筑峯学園の日々の様子をゆる〜く
発信しています。
お気軽にのぞいてみてください。



Follow
me!!





ホッキョク



社会福祉法人
筑峯学園

発行日／令和7年5月

発行所／社会福祉法人筑峯学園

〒300-4213 茨城県つくば市平沢655-4

TEL 029-867-0025

FAX 029-867-1968

MAIL sat@tsukuhou.or.jp

WEBSITE <http://www.tsukuhou.or.jp>